

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

デジタルコミュニケーションの総合誌

INTERNET



Editor's No.38

インターネットマガジン

定価 330円

9/16 09/530, 954
6~up 2756
787

【集中企画】CGI/SSI/ダイナミックHTMLも恐くない!

ホームページ・スーパーチューンアップ

【エクストロークス】SOHOの必需品

ネットワーク対応プリンター購入ガイド

【超テクニック】知って得するこんな使い方をすべて見せます

ネットスケープコミュニケーター4.0裏ワザ30連発

【ハクツウ】とことん楽しむための情報満載!

餅月あんのポストペット大好き

【レポート】開催直前!これを読めば120%楽しくなる

<徹底解剖>長野オリンピックオフィシャルサイト

【新連載】メディアプランナーのための

クリエイティブデザイン講座

【特別連載】

▶インターネットでの不正行為~その傾向と対策

▶インターネット最新テクノロジー「IPv6」

▶米国インターネット最前線レポート

【インターネットイニターページ】

●特集「ハッピーバレンタイン」

●下駄一歩が選んだオルタナカルチャーサイト

●テーマ別10ジャンルから選んだクールサイト110

【詳細入門ページ】Win&Mac

またつないでいない人のための

インターネット接続マニュアル

【業界でもっとも信頼できるデータ集】

掲載プロバイダー791社(↑6/↑1)

●料金一覧 ●話中度調査 ●相互接続マップ

●CD-ROMで一発検索:プロバイダーショックドナーズ(Win/Mac)

PRESENT SOHO用ネットワークプリンターやTAなど

プレゼント&商品モニター大募集!

定番ソフトから便利ツールまで、すべてそろったフリー&シェアウェア30

【付録1/インターネットナビゲーター(CD-ROM2枚組)】

CD-ROM CD-ROM インターネットエクスプローラ4.01日本語版(Win)

CD-ROM CD-ROM インターネットエクスプローラ4.01日本語版(Mac)

CD-ROM CD-ROM インターネットエクスプローラ4.01日本語版(Win/Mac)

CD-ROM CD-ROM インターネットエクスプローラ4.01日本語版(Win/Mac)

【付録2/ポケットブック】インターネットナビゲーター(CD-ROM2枚組)【ケーブルモデムガイドブック】

THIS PAGE BLANK (USPTO)

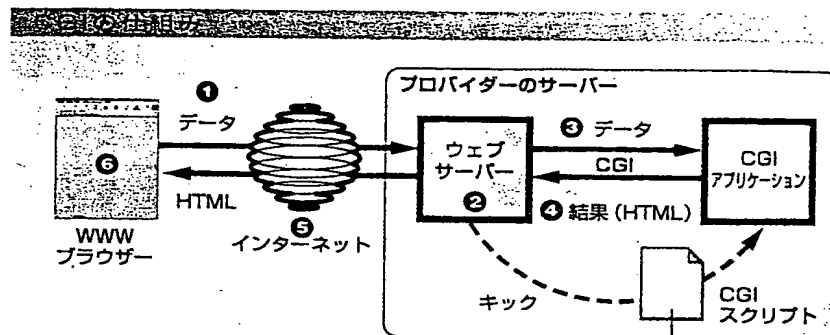
CGIとは

CGIとはCommon Gateway Interfaceの略で、WWWブラウザから送られたリクエストを処理するアプリケーションとウェブサーバーとの間のソフトウェア的なインターフェイスである。ウェブサーバーからどのようにデータを送り、アプリケーションがどのようにデータを返すかを取り決めている。

CGIがどのように使われるかを解説しよう。

プロバイダーのサーバーコンピュータにホームページ制作者が作成したプログラムが置かれている。このプログラムはウェブサーバーから送られてくるデータを処理し、結果をウェブサーバーに返すものだ。プログラムは大抵Perlやシェルスクリプトというプログラム言語で記述されていて、一般にCGIスクリプトと呼ばれる。CGIスクリプトが起動するとファイルに書かれているプログラムすなわちCGIアプリケーションが実行される。

CGIアプリケーションの動きは次のような流れになる。



WWWブラウザで入力されたフォームのデータの処理方法が記述されている。

- ① WWWブラウザで入力されたフォームのデータは、CGIスクリプト宛てにウェブサーバーまで送られる。
- ② ウェブサーバーはデータを受け取り、CGIスクリプトを起動させてCGIアプリケーションを実行する。
- ③ さらにウェブサーバーはCGIアプリケーションにデータを渡す。
- ④ CGIアプリケーションは受け取ったデータを処理して結果をHTMLで返す。

⑤ ウェブサーバーは送られてきたHTMLをWWWブラウザに返す。

⑥ WWWブラウザは結果のHTMLを表示する。

このようにCGIを使えばインタラクティブな仕組みを作ることができる。

CGIスクリプトを置くサーバー上のディレクトリはプロバイダーによって異なる。222ページの表を参考にするか、プロバイダーに直接問い合わせてほしい。

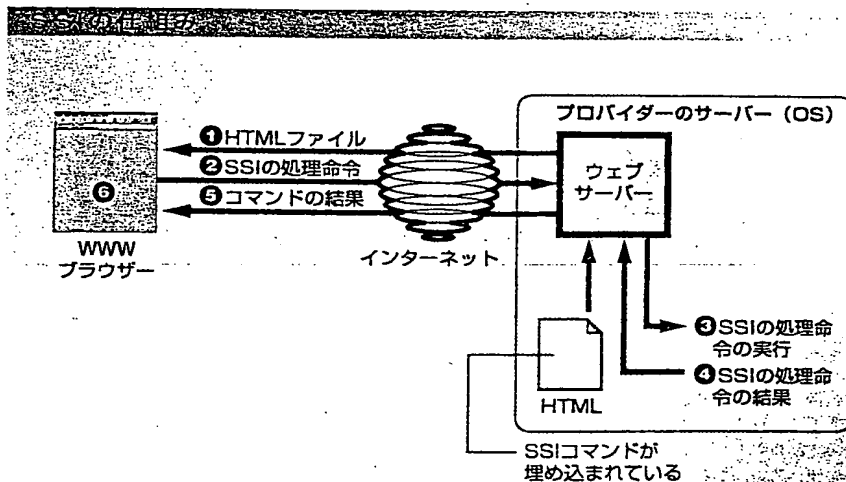
SSIとは

SSIとはServer Side Includeの略で、HTMLタグの中に埋め込まれた命令をサーバー側で実行し、その結果をHTMLの中に埋め込んで表示する仕組みである。

```
<html>
<body>
現在の時刻は
<!--#exec cmd="date" -->
です。
</body>
</html>
```

図のHTMLの<!--#exec cmd="date" -->というタグがSSIである。これはサーバーのオペレーティングシステムであるUNIXの「date」というコマンドをサーバーで実行しろということを表している。「date」は、UNIXで日付と時刻を表示させるコマンドである。このHTMLファイルをWWWブラウザで表示させると次のようになる。

現在の時刻は Sat Sep 5 00:17:33 JST 1998 です。



SSIの処理の流れは次のようになっている。

- ① SSIが埋め込まれたHTMLファイルをWWWブラウザで読み込む。
- ② SSIの処理命令をウェブサーバーに送る。
- ③ ウェブサーバーは、ウェブサーバーが稼働しているOSに対してSSIの処理命令を実行する。
- ④ OSから返ってきた実行結果をウェブサーバーが受け取る。

⑤ ウェブサーバーがWWWブラウザに実行結果を送る。

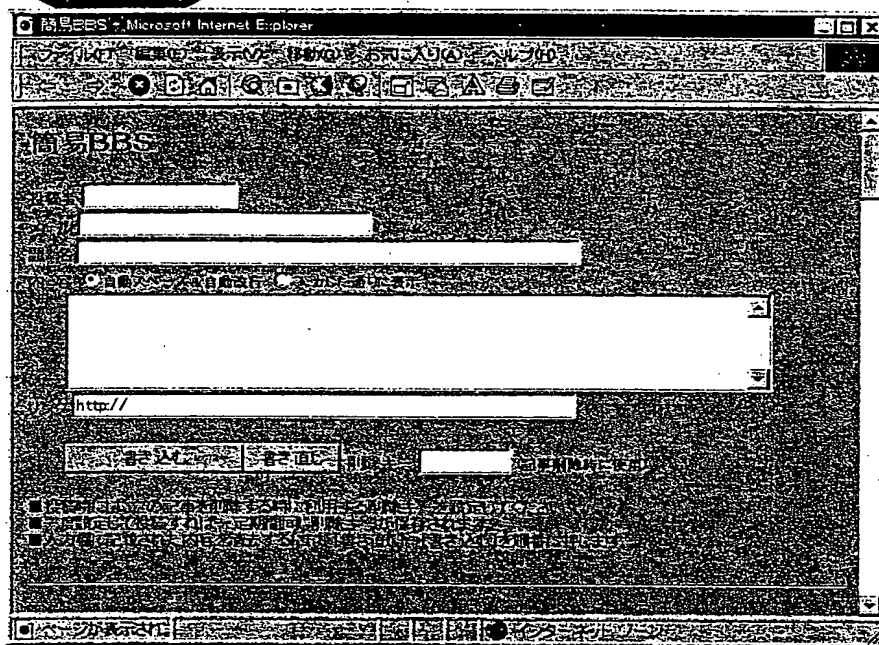
⑥ 実行結果が埋め込まれたHTMLが表示される。

SSIはUNIX標準のコマンド以外の実行ファイルも指定でき、セキュリティホールになりやすいので使用を禁止しているプロバイダーも多い。実際にSSIが使えるかどうかを自分が契約しているプロバイダーに確認しておこう。

THIS PAGE BLANK (USPTO)

Tune Up 1

掲示板を作ろう



自分のホームページで掲示板システムを作ってみるのはどうだろうか。仲間同士のコミュニケーションに、またさまざまな人と知り合うために、掲示板は大活躍するだろう。今回紹介する掲示板システムはたった3つのファイルを自分のウェブサイトに置くだけでできてしまうすぐれものだ。難しい知識も必要としないのでだれにでもできる。簡単に作れるといっても十分な機能を持った立派なシステムだ。これを設置すればアクセスが一気に増えること間違いなしだ。



CD-ROM収録先：
ウィンドウズ [A] HTML→Win→Tune1
マッキントッシュ [A] HTML→Mac→Tune1



- ① 実行環境を調べる
- ② ファイルを編集する
- ③ ファイルをウェブサイトに送る
- ④ ファイルのホームページを設定する
- ⑤ 掲示板システムを実行してみる
- ⑥ エラーへの対応

① 実行環境を調べる

この企画で紹介するCGIスクリプトはウェブサーバーとしてUNIX上で動くNCSA-HTTPdとApacheを前提にしている。これ以外のウェブサーバーを使っているプロバイダーでは動作を保証できない。

Tune1フォルダーを開くと3つのファイルが入っている。「jcode.pl」は日本語コード変換のプログラムで、「minibbs.cgi」は掲示板システム本体のCGIスクリプトだ。「minibbs.dat」は掲示板システムのデータが保存されるファイルである。このシステムはCGIスクリプトが実行できるディレクトリーであればどこにでも置ける。



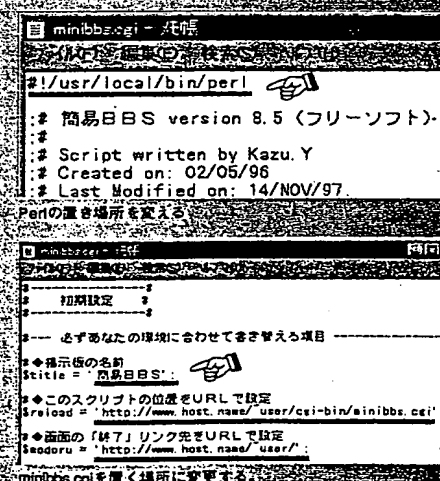
② ファイルを編集する

「jcode.pl」はいっさい編集せずにこのまま使うが、「minibbs.cgi」は環境に合わせて編集する必要がある。

まず最初に1行目のPerlの絶対パスをプロバイダーから指定されたものに変える。222ページにある表を参考にしてほしい。この文は必ずファイルの1行目になければならないので1行目に改行文字などを入れないように注意しよう。また頭に「#」を付けるのも忘れないようにする。

次に「必ずあなたの環境に合わせて書き換える項目」の部分を変える。

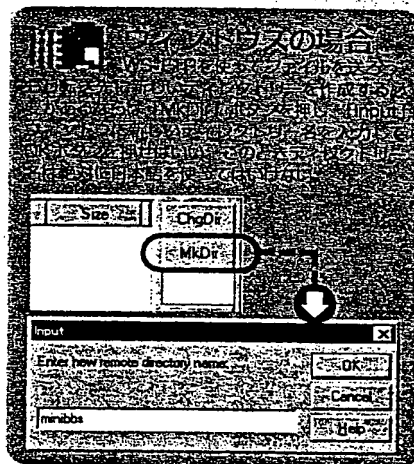
「簡易BBS」を自分の掲示板システム名に変え、「\$reload=」以下のURLをminibbs.cgiを置くURLに変える。また「\$smodoru=」以下のURLを掲示板を退出した際に表示させるページのURLに変える。いずれの値もシングルクォーテーション（'）で囲むのを忘れないようにしよう。



③ ファイルを ウェブサイトへ送る

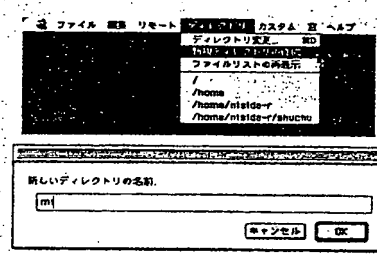
ファイルの編集が終わったら「jcode.pl」、「minibbs.cgi」、「minibbs.dat」を契約しているプロバイダーのサーバーにある自分のディレクトリの下への指示文システムを置くディレクトリに送る。プロバイダーでCGIを置く場所を限定している場合は、そのディレクトリの下に置く。このとき3つのファイルは同じディレクトリに置く必要がある。そこで「minibbs」というディレクトリを作って、その中にこの3つのファイルを置くことにする。

ファイルの転送方法は211、212ページで説明した通りだ。そこでここではFTPソフトを使ったディレクトリの作成方法を説明しよう。



マッキントッシュの場合

Fetchを使って転送先に新しいディレクトリを作成するには、メニューバーから「ディレクトリ」を選び「新規ディレクトリの作成…」を選ぶ。ウィンドウが現れるので新しいディレクトリ名を入力してOKボタンを押す。このときディレクトリ名に絶対に日本語を使ってはいけません。



④ ファイルのパーミッション を設定する

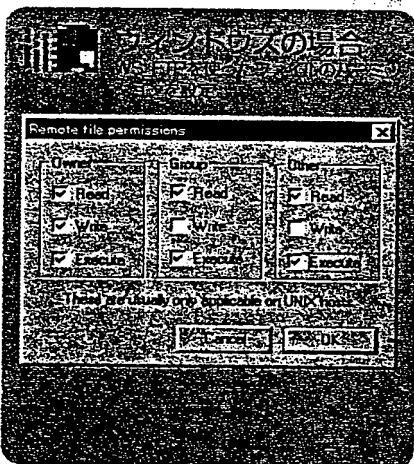
ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り可能、「w」は書き込み可能、「x」は実行可能を表している。パーミッションの設定は、表中の値が「○」ならチェックを付け、「×」ならチェックをはずす。

	Owner			Group			Other		
	r	w	x	r	w	x	r	w	x
jcode.pl	○	○	○	○	○	○	○	○	○
minichat.cgi	○	○	○	○	○	○	○	○	○
minichat.dat	○	○	○	○	○	○	○	○	○

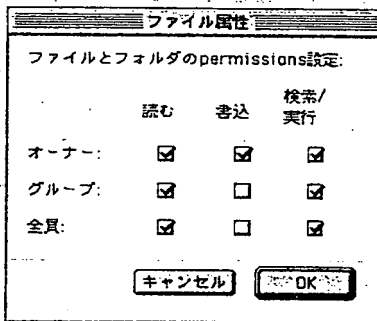
右図でパーミッションの設定の仕方を「minibbs.cgi」を例にとって説明する。

詳しい設定方法は211、212ページに掲載してあるので参照してほしい。



マッキントッシュの場合

Fetchを使ったファイルのパーミッションを設定。



⑤ 掲示板システムを 実行してみる

これで掲示板システムの設置は完了だ。実際に動くかどうか、WWWブラウザでアクセスして確認してみよう。呼び出しのURLはファイルの編集で\$reloadに設定したURLだ。ホームページなどからリンクを設定する場合もこのURLを使おう。

最初にアクセスするとマスターキーという管理者用の設定画面になる。マスターキーはすべての記事の削除ができるパスワードなので、忘れないようにきとめておこう。

データは「minibbs.dat」に書き込まれているので、バックアップをとるにはこのファイルを保存しておこう。

⑥ エラーの対応

次のようなエラーメッセージがWWWブラウザに表示されたら対応策を試してほしい。それでもうまくいかなければ、プロバイダーのサポートに協力してもらおう。

エラーメッセージ: Not Found

対応策: \$reloadで記述したURLが間違っている。もしくは、minibbs.cgiファイルを置いた場所が間違っている。

エラーメッセージ: Forbidden

対応策: パーミッションの設定が間違っている。

エラーメッセージ: ServerError

対応策: そのほかのエラー。パーミッションの設定やファイルの置き場所を確認したうえでプロバイダーのサポートに相談する（原因究明はある程度の知識が必要）。

Tune Up 2

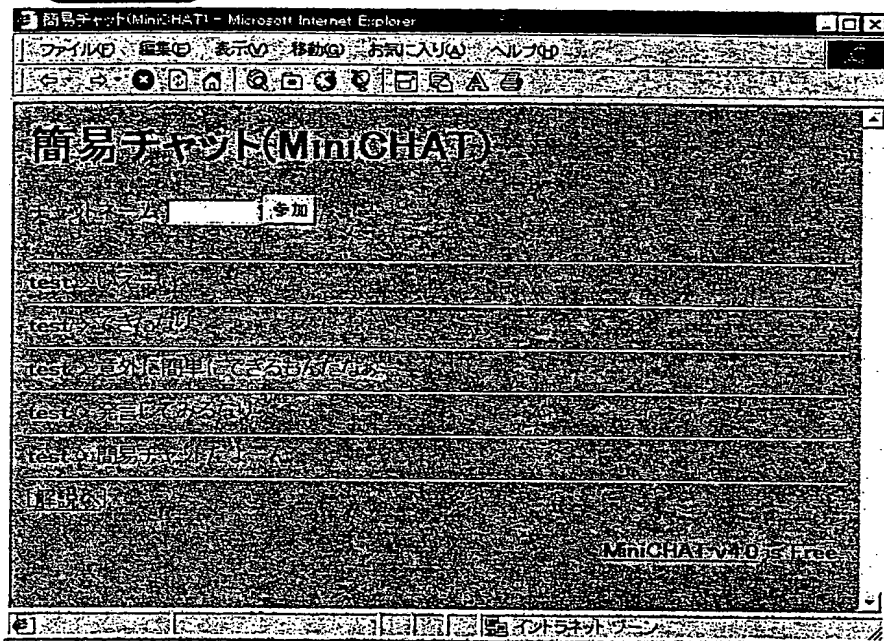
チャットルームを作ろう

N
3.0

N
4.0

3.0

4.0



チャットはオンラインでのコミュニケーションを広げる楽しい仕掛けの1つだ。つつい深みにはまってしまう、何時間も会話を楽しんでしまう。そんな場を自分が提供してみるのもたまにはいいだろう。そこで簡単に構築できるチャットルームの作り方を紹介しよう。このTIPSもたった3つのファイルだけで作れる。機能も十分にチャットが楽しめるものとなっている。もちろん専門的な知識はいっさい必要ない。実際に動き出したら友達に教えてチャットを楽しもう。



CD-ROM収録先:
ウィンドウズ [A] HTML→Win→Tune2
マッキントッシュ [A] HTML→Mac→Tune2



- ① 実行環境を調べる
- ② ファイルを編集する
- ③ ファイルをウェブサイトに送る
- ④ ファイルのパーミットを設定する
- ⑤ エラーの対応

① 実行環境を調べる

Tune2フォルダーを開くと3つのファイルがある。「jcode.pl」は日本語コード変換のプログラムで、「minichat.cgi」はチャットシステム本体のCGIスクリプトだ。「minichat.dat」は会話の内容が保存されるファイルである。会話の内容がたまっていくと、このファイルサイズが大きくなるので、CD-ROMの「minichat.dat」と定期的に入れ替えよう

このシステムはCGIスクリプトが実行できるディレクトリーであればどこでも置ける。



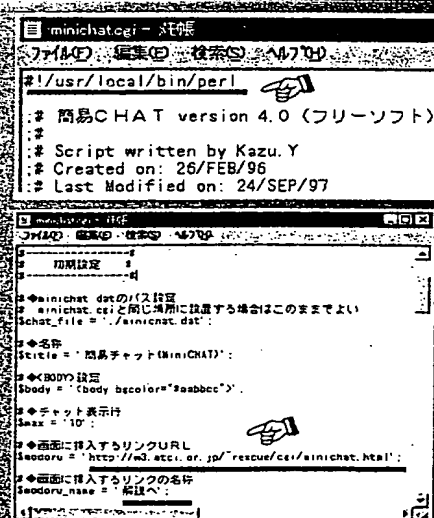
② ファイルを編集する

「jcode.pl」はいっさい編集せずにそのまま使うが、「minichat.cgi」は環境に合わせて編集する必要がある。

まず最初に1行目のPerlの絶対パスをプロバイダーから指定されたものに変える。222ページにある表を参考にしよう。この文は必ずファイルの1行目にしなければならないので1行目に改行文字など入れないように注意しよう。また頭に「#!」を付けるのも忘れないようにする。

次に「初期設定」の部分自分の環境に合わせて変える。

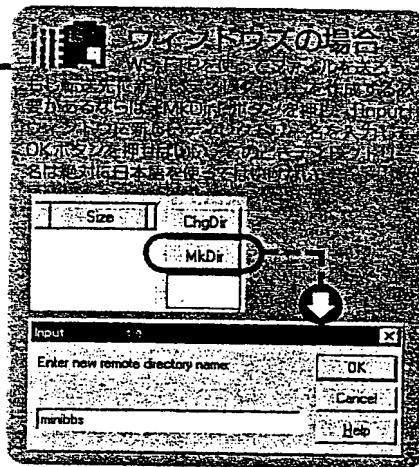
「\$modoru=」以下のURLをチャットルームからのジャンプ先（たとえば自分のホームページ）のURLに変更しよう。また「解説へ」の部分もほぼ指定したジャンプ先の名前に変えておこう。いずれの値もシングルクォーテーション（'）で囲むのを忘れないようにする。



③ ファイルを ウェブサイトに送る

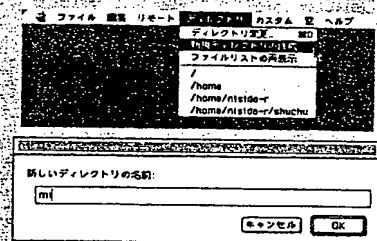
ファイルの編集が終わったら「jcode.pl」、「minichat.cgi」、「minichat.dat」を契約しているプロバイダーのサーバーにある自分のディレクトリの下のチャットシステムを置くディレクトリに送る。このとき3つのファイルは同じディレクトリに置く必要がある。そこで「minichat」というディレクトリを作って、そのディレクトリに3つのファイルを置くことにする。

ファイルの転送方法は211、212ページで説明した通りだ。そこでここではFTPソフトを使ったディレクトリの作成方法を説明しよう。



④ マッキントッシュの場合

Fetchを使って転送先に新しいディレクトリを作成するには、メニューバーから「ディレクトリ」を選び「新規ディレクトリの作成...」を選ぶ。ウィンドウが現れるので新しいディレクトリの名前を入力してOKボタンを押す。このときディレクトリ名に絶対に日本語を使っているといけない。



④ ファイルのパーミッション を設定する

ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り可能、「w」は書き込み可能、「x」は実行可能を表している。パーミッションの設定は、表中の値が「○」ならチェックを付け、「×」ならチェックをはずす。

	Owner			Group			Other		
	r	w	x	r	w	x	r	w	x
jcode.pl	○	○	○	○	○	○	○	○	○
minibbs.cgi	○	○	○	○	○	○	○	○	○
minibbs.dat	○	○	○	○	○	○	○	○	○

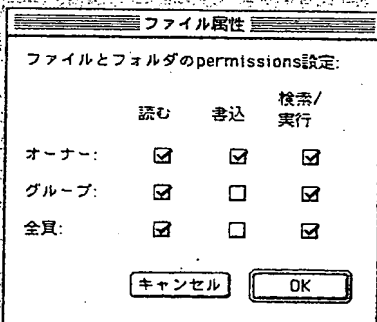
右図ではパーミッションの設定の仕方をminichat.cgiを例にとって説明する。

詳しい設定方法は211、212ページに掲載しているので参照してほしい。



④ マッキントッシュの場合

Fetchを使ったファイルのパーミッションを設定。



⑤ エラーの対応

これでチャットシステムの設置は完了だ。実際に動くかどうか、「minichat.cgi」にWWWブラウザでアクセスして確認してみよう。ホームページからリンクする場合、ここで入力したURLを記述すればいい。

以下のようなエラーメッセージがWWWブラウザに表示されたら対応策を試して欲しい。それでもうまくいかなければ、プロバイダーのサポートに協力してもらおう。

エラーメッセージ: Forbidden

対応策: パーミッションの設定が間違っている。

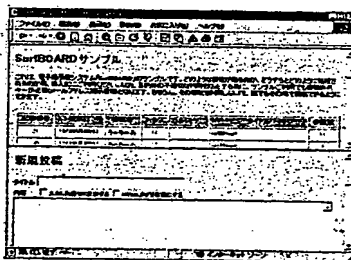
エラーメッセージ: ServerError

対応策: そのほかのエラー。パーミッションの設定やファイルの置き場所を確認したうえでプロバイダーのサポートに相談する(原因究明はある程度の知識が必要)。

もっと高機能なCGIページを作りたい人に

設定および送金方法はレスキュー氏のホームページ(209ページ参照)を見てほしい。

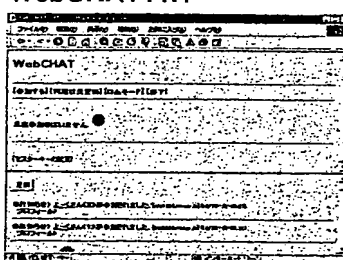
SurfBOARDv1.1



WIN: [A]:HTML→Win→SurfBOARDv1.1
MAC: [A]:HTML→MAC→SurfBOARDv1.1

フレームを使った見やすい画面が特徴の高機能掲示板システム。自分がどこまで読んだかが分かる既読位置保存機能付き。レスキュー氏作のシェアウェア。

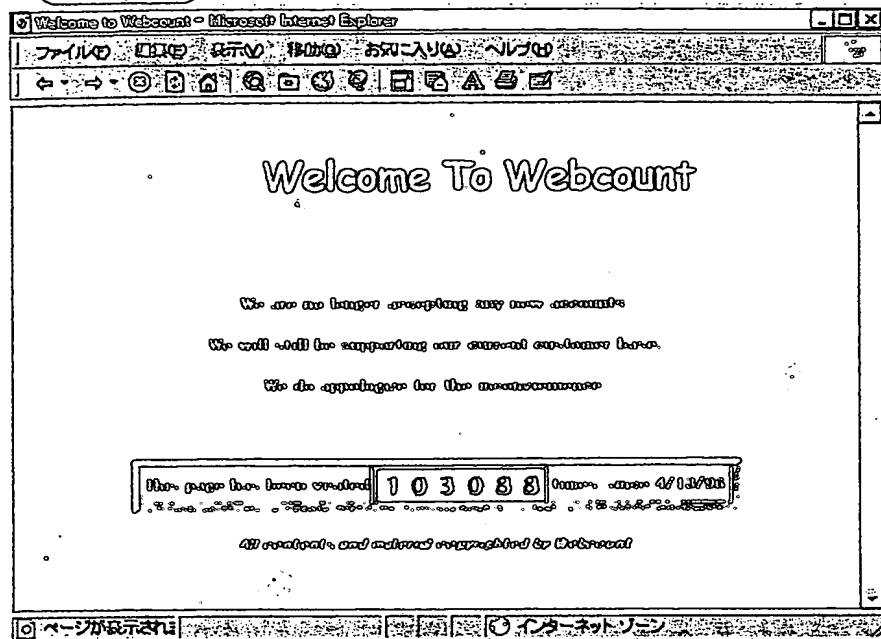
WebCHAT11.1



WIN: [A]:HTML→Win→WebCHAT11.1
MAC: [A]:HTML→MAC→WebCHAT11.1

こちらもフレームを使った見やすい画面が特徴のウェブチャットシステム。利用状況を確認できたり、ロムモードでチャットが楽しめるなど機能が充実している。レスキュー氏作のシェアウェア。

グラフィカルアクセスカウンターを取り付けよう



掲示板やチャットルームを自分のホームページに開設したら、アクセス数が変わったかどうか気になってくるだろう。そこでアクセスカウンターの設置に挑戦してみよう。紹介するのは単なるアクセスカウンターではなく数字に画像を使ったグラフィカルなものだ。SSIという処理を使うのでちょっと難しく感じるかもしれないが恐れることはない。SSIは一部のプロバイダーでは使用が禁止されているか、もしくは制限があるので、自分の契約するプロバイダーの指示に従おう。

CD-ROM収録先
ウィンドウズ [A] HTML→Win→Tune3
マッキントッシュ [A] HTML→Mac→Tune3



- ①「.htaccess」ファイルを作成する
- ②SSIが使えるかどうかを確認する
- ③ファイル名と場所を決める
- ④ファイルを作成する
- ⑤ファイルの名前を変更する
- ⑥ファイルのパーミションを設定する
- ⑦実行して確認する

①「.htaccess」ファイルを作成する

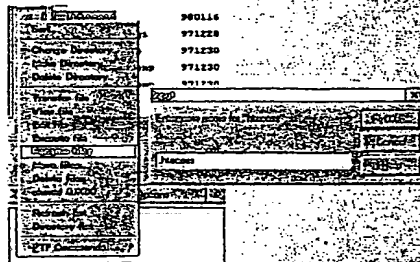
SSIはHTMLに埋め込まれた処理命令をサーバーで実行し、結果を最初のHTMLに埋め込みなおして表示する仕組みである。

SSIを利用するためにNCSA-HTTPdやApache系のウェブサーバーでは「.htaccess」という設定ファイルが必要となる場合がある。222ページの表を参考にするかプロバイダーに確認しよう。

```
AddType text/x-server-parsed-html .html
AddType text/x-server-parsed-html .htm
```

上記のような2行を記したテキストファイルを作成する。この意味は「.html」、「.htm」という拡張子の付いたHTMLファイル内でSSIを使うようにするということだ。プロバイダーによっては「.html」の代わりに「.shtml」という拡張子を定義するように指定するところもあるようだ。

ウィンドウズでは自分のコンピュータのハードディスクに「.htaccess」という名前のファイルは作成できないので、「htaccess」というファイル名で保存して契約しているプロバイダーにある自分のディレクトリーに送ったあと、名前を「.htaccess」に変更する必要がある。変更方法はWS_FTPを使ってファイルを送ったあと、ファイルの上でマウスをクリックし、出てきたメニューから「Rename files」を選べばよい。



②SSIが使えるかどうかを確認する

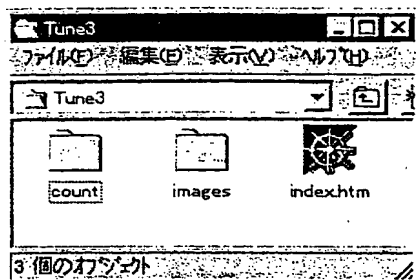
SSIが使えるかどうかを確認するには、SSIを使う簡単なコマンドをHTMLに入れた後、次の一文をHTMLファイルのタグでコメントアウトに置く。

```
現在 <!--#exec cmd="date" --> です。<p>
```

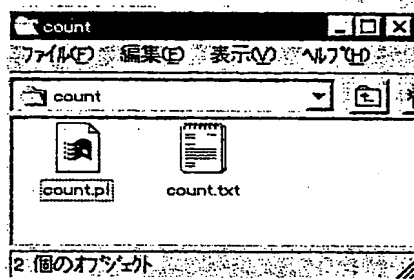
日時が表示されている場合はSSIが使える。表示されていない場合はWWWブラウザの「View Source」を使ってソースを覗いてみる。<!--#exec cmd="date" --> が表示され、SSIが機能していないことが分かる。このSSIはセキュリティを考慮して、プロバイダーによっては全面的に利用を禁止している場合がある。また代替方法が用意されている場合もある。それに従おう。

③ ファイルを置く場所を決める

Tune3フォルダーを開くと次のファイルとフォルダーを確認できる。



「index.html」はSSIのコマンドが埋め込まれているHTMLファイルである。「count」フォルダーはSSIで実行されるSSIアプリケーションを記述したファイルが入っている。「images」フォルダーはアクセスカウンターで表示される0から9までの数字がデザインされたGIFファイルが格納されている。

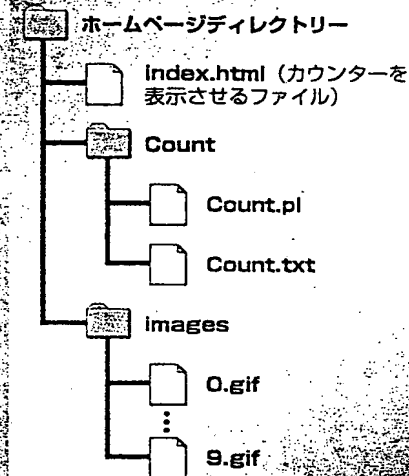


さらに「count」フォルダーを開くと2つのファイルを確認できる。

「count.pl」はアクセスカウンターの処理命令が書かれたファイルである。「count.txt」はアクセス数を記録するためのファイルだ。

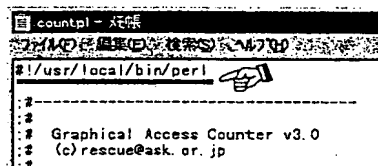
CGIとは違ってSSIはウェブサイトのどのディレクトリーに置いてかまわない。

今回は右図のように置くことにする。



④ ファイルを編集する

count.plを環境に合わせて編集する必要がある。まず最初に1行目のPerlのありかをプロバイダーに問い合わせた絶対パスに変える。この文は必ずファイルの1行目にしなければならないので1行目に改行など入れないように注意しよう。



このほかの設定は、ファイルを置く場所が上記と同じ場合以外に変更する必要はない。不用意にプログラムを変更するとサーバーの機能を止めてしまう恐れがあるので注意しよう。

count.txtはアクセス数を記録するファイルだ。最初にカウントを開始する数字を半角数字で記録しておこう。

添付のindex.htmlはあくまでも参考のファイルである。自分のサイトのトップページにアクセスカウンターを付けるならば、次の一文をトップページのHTMLファイルの中に付け加えよう。

A <!--#exec cmd="/count/count.pl"-->

⑤ ファイルをウェブサイトにする

「count」フォルダーと「images」フォルダーを自分のウェブサイトにする。index.htmlは自分のファイルなので、タグAを書いたファイルを作成したら、これを転送しよう。http://localhost/ (ウィンドウズの場合はhttp://localhost/) を書いたHTMLファイルと同じように転送する。ウィンドウズの場合は、http://localhost/から「htaccess」から「htaccess」をダウンロードし、必要に応じて「WS-FTP」などのファイル転送ソフトを使って、ウェブサイトのディレクトリーに変更方法は、①で述べた通りである。

⑥ ファイルのパーミッションを設定する

ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り、「w」は書き込み、「x」は実行を表している。

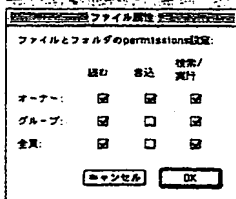
	Owner			Group			Other		
count	r	w	x	r	w	x	r	w	x
count.pl	r	w	x	r	w	x	r	w	x
count.txt	r	w	x	r	w	x	r	w	x

これ以外のファイルは、ファイルを送ったままのパーミッションでかまわない。もしうまくいかないようであれば、パーミッションの設定で読み取り可能にしてほしい。注意してほしいのは、「count」がディレクトリーであることだ。ディレクトリーもパーミッションの設定ができる。

パーミッションの設定の仕方をcount.plを例にとって説明する。



⑦ マッキントッシュの場合



Fetchを使ってファイルのパーミッションを設定する。

⑦ 実行してみる

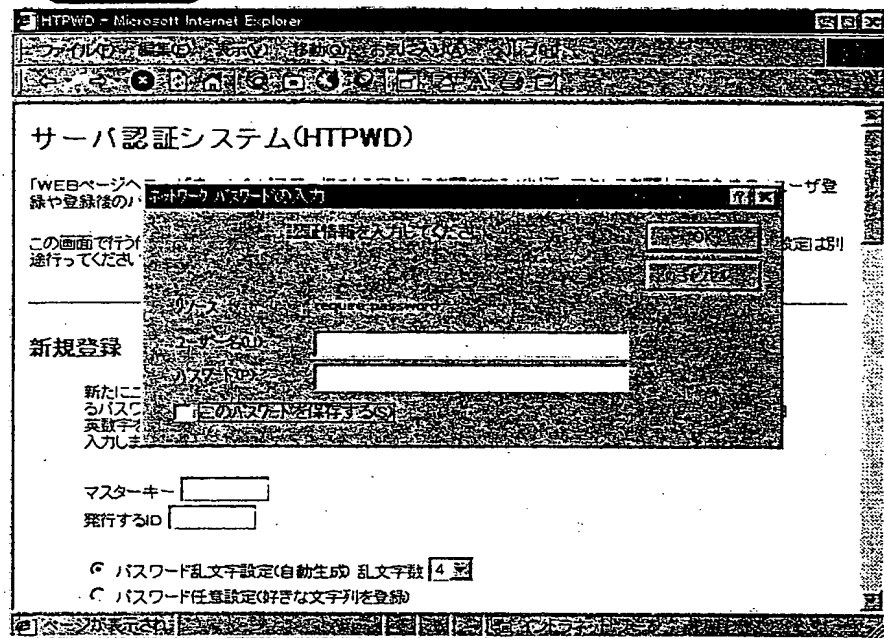
これで完了した「index.html」を自分のウェブサイトへアップロードし、アクセスカウンターを取り付け、確認しよう。

常にBUSYと表示される場合は、ディレクトリーにすべてのパーミッションを付与するかどうかを確認しよう。数字のURLなどからダウンロードする。

このカウンターは1つの数字で表示するので、自分の好きな0から9までの数字を同じファイル名で用意し、数字を楽しくする。



パスワードを使ってアクセスを制限しよう



掲示板やチャットルームをホームページで公開してアクセス数が増加してきた。しかし秘密の会話は他人には見せたくない。そんな場面もホームページのチューンアップを続けると出てくるだろう。ここで紹介するテクニックはそんな願いをかなえてくれる、特定のディレクトリーだけにアクセスを制限してくれる方法だ。しかもウェブサーバーの機能を使った本格的なものとなっている。掲示板のようにいろんな人が勝手に書き込めると第三者に悪用されるケースだってある。さっそく自分のホームページに秘密の扉を作ろう。

CD-ROM収録先
ウィンドウズ [A]: HTML → Win → Tune4
マッキントッシュ [A]: HTML → Mac → Tune4



- ① プロバイダーの環境を確認する
- ② ファイルを置く場所を決める
- ③ ファイルを置く
- ④ アクセス制限を設定する
- ⑤ ファイルをウェブサイトに送る
- ⑥ ファイルのパーミションを設定する
- ⑦ 実行してみる

① プロバイダーの環境を確認する

この機能を取り付けるには、サーバー上のディレクトリーの絶対パスを知る必要がある。210ページで詳しく説明したように、絶対パスとはサーバー上でファイルやディレクトリーの絶対的な位置を示すものだ。FTPで表示されるディレクトリーの位置は必ずしも絶対パスではないので、プロバイダーに確認しよう。

セキュリティ上の問題から絶対パスをユーザーに教えていないプロバイダーも少なくないので、必ず確認してから取り掛かって欲しい。

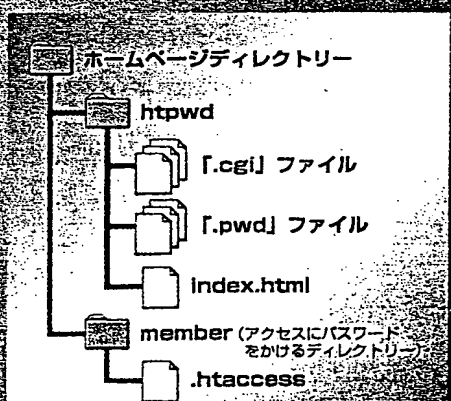
またプロバイダーによっては絶対パスを使わない方法を提供しているところもある。併せて確認してみよう。

② ファイルを置く場所を決める

ファイルを置く位置関係は、CGIスクリプトをどのディレクトリーに置いてもよい場合と、指定されたディレクトリーに置く場合とで異なる。そこで2通りとも紹介しておく。

A CGIスクリプトをどのディレクトリーに置いてもよい場合

右図を見てほしい。ここでアクセスを制限するディレクトリーは「member」である。このディレクトリーに「.htaccess」というファイルを置く。このファイルには、どのパスワードファイルを読んでアクセス制御を行うかなどが記述されている。「htpwd」はパスワードやパスワード管理のCGIスクリプトを置くディレクトリーだ。

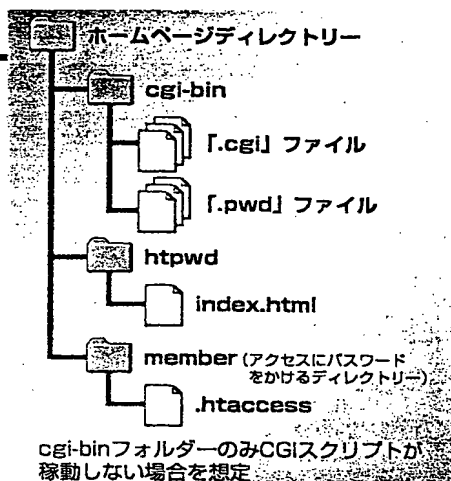


② 次にCGIスクリプトファイル置くディレクトリが決まっている場合

右図を見てほしい。CGIスクリプトを実行できるフォルダーを自分のホームページディレクトリの下に「cgi-bin」というディレクトリと仮定する。

先ほどと同様に「member」がアクセスを制限するディレクトリになっている。このディレクトリに「.htaccess」というファイル置く。

パスワード管理システムは先ほど通り、拡張子が「.cgi」であるファイルと「.pwd」のファイルを「cgi-bin」の下に置いている。さらに「httpwd」の中に「index.html」がある。このためパスワード管理システムがバラバラに存在している。



CGIスクリプトを実行できるフォルダーが右図と異なる場合は、プロバイダーのサーバーの環境に合わせて変更して欲しい。基本的に「.cgi」と「.pwd」が拡張子のファイルはCGIスクリプトを実行できるフォルダーに持っていかないとアクセスを制限するディレクトリへのアクセスは、制限するディレクトリ内に「.htaccess」というファイルを設置さえすれば、多分、任意でかまわない。ただし、プロバイダーによっては環境が違うため記事中の設定とは異なる場合がある。うまく行かない場合はプロバイダーのサポートなどに相談してみるのも一つの手だ。

③ ファイルを編集する

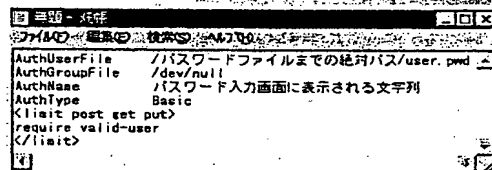
②のAの場合は特にファイルを編集する必要はない。②のAの場合は、「index.html」中の拡張子が「.cgi」というファイルへのアクセスURLを次のように変える。これは「index.html」から各「.cgi」ファイルへのパスを変更したものだ。②のBと違うフォルダーに置いた場合は、「.cgi」ファイルへのパスを自分が置いた場所の相対パスに変えて置く。

```
<form method=post action=../cgi-bin/regist.cgi>
<form method=post action=../cgi-bin/change.cgi>
<form method=post action=../cgi-bin/remove.cgi>
<form method=post action=../cgi-bin/remove2.cgi>
<h3><a href=../cgi-bin/master.cgi>■</a> マスターキー
設定/変更</h3>
```

④ アクセス制限を設定する

次にアクセス制限をするための設定ファイルを編集する。②で示した場所に「.htaccess」というファイル置く。このファイルをディレクトリに置くことによってアクセス制限ができる。

「パスワードファイルまでの絶対パス」は、拡張子が「.pwd」のファイルが置かれているディレクトリの絶対パスである。プロバイダーによって絶対パスが異なるので、必ず「.htaccess」を置く場所とプロバイダーの絶対パスを照らし合わせる。



自分で入れたい文字列を入力する。日本語を使うとWWWブラウザによっては表示できないことがあるので注意しよう。その他の設定については変更する必要はない。

⑤ ファイルをウェブサイトを送る

③で決めた場所のとおりファイルを送る。これ以外にほかのディレクトリへのアクセスを制限したい場合は、「.htaccess」ファイルを制限するディレクトリに置けばいい。

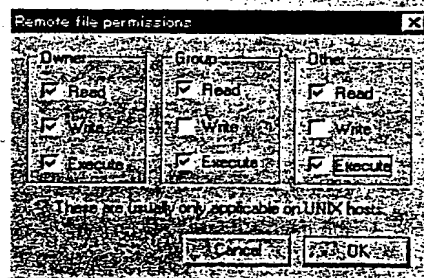
⑥ ファイルのパーミッションを設定する

ファイルのパーミッションは以下のとおりである。表中の「r」は読み取り、「w」は書き込み、「x」は実行を表している。

	Owner			Group			Other		
	r	w	x	r	w	x	r	w	x
拡張子が「.cgi」のファイル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
拡張子が「.pwd」のファイル	○	○	○	○	○	○	○	○	○

これ以外のファイルは、ファイルを送ったままのパーミッションでかまわない。もしうまくいかないようであれば、パーミッションの設定ですべて読み取り可能にしてほしい。

パーミッションの設定の仕方を拡張子が「.cgi」のものを例にとって説明する（ウィンドウズでWS_FTPを使った場合）。



⑦ 実行してみる

セットアップが終わったら「httpwd」ディレクトリの下に「index.html」にアクセスしてみよう。各種の登録をする。この際、WS_FTPの画面に従って登録する。

登録がうまくいかない場合は、拡張子が「.pwd」や「.pwd」のファイルのパーミッションを確認する。

登録が終わったらアクセス制限ディレクトリにWWWブラウザでアクセスしてみよう。ユーザ名とパスワードを登録したユーザー名とパスワードでアクセスできるはずだ。

「user.pwd」というファイルが作成されたら、そのIDと暗号化したパスワードを「master.pwd」に各種設定を入力する。パスワードが暗号化されているのでバックアップを取る場合、このファイルは安全な場所に保存しておく。